

平成25年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成25年9月19日(木) 13時30分～17時00分
- 2 場 所 さぬき市役所3階301会議室
- 3 出席者 【委員】岩田委員、柿木委員、亀井委員、高橋委員、筒井委員(副会長)、
長安委員(会長)、夏田委員、南田委員、宮本委員
【事務局】総務部政策課課長外4名
【傍聴】1名
- 4 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議題
(1) 男女共同参画パネル展について
(2) 男女共同参画中学生ワークショップについて
(3) 第2次男女共同参画プラン施策の体系(案)について
(4) 第2次男女共同参画プランの構成等について
(5) 今後の会議等スケジュールについて
○DV・児童虐待防止キャンペーンについて
○男女共同参画講演会について
○次回の協議会について
4 その他
○男女共同参画推進市民サポーター活動について
5 閉会
- 5 配布資料 資料1 男女共同参画パネル展総括
資料2 中学生ワークショップ通信
資料3 中学生ワークショップアンケート集計・当日の様子
資料4 計画内容変更案について
資料5 施策体系(案)
資料6 施策体系変更案(説明資料)
資料7 第2次プランの構成等
資料8 キャンペーン・講演会

6 会議内容

発言者	意見概要
	< 開 会 > (13 : 30)
事務局	開会あいさつ
副会長	あいさつ
事務局	<資料1：パネル展結果説明> <資料2～3：中学生ワークショップ結果説明>
副会長	以上の説明についてご意見等をおうかがいしたい。

委員	<p>パネル展については、展示物の準備や終了後の撤収について、出品者とのもっと綿密な連携が必要だったように思う。パネル展の会場について、集客が少ない環境ではないだろうか。以前、子どもたちのワークショップと同時期に実施していた頃は、まだ来場者が多かったような気がする。もう一工夫ほしい。見てもらってのことではないか。</p>
事務局	<p>出品者にも準備等をお願いしていく必要があると思う。また市民サポーターの皆さんと連携しながら、今後は、市民主体のパネル展を目指していきたい。来てもらった人の立場に立って環境を整えていくべきと考えている。場所については、もう少し前面に出したかったが、諸々の制約があった。また、準備不足な点は今後、改善を検討していく。</p>
副会長	<p>認知～周知と道案内が不十分であったように感じる。</p>
事務局	<p>人員体制の問題もあった。</p>
副会長	<p>パネルが（物理的に）不安定ではなかったか？</p>
事務局	<p>いつもと違うパネルを配置した。今後改善したい。</p>
委員	<p>パネル展の当番さんはよく頑張ってくれていた。</p>
委員	<p>中学生ワークショップについて、今の中学生は「平等」や「差別」について理解できているのだろうか？</p>
委員	<p>個人差もあるが、学校では人権教育・人権週間で公開授業したり、保護者にも参観してもらったりなど、積極的に行っている。根気をもった指導が必要だ。いじめ等があった時に、人権の重要性を啓発し、行動を起こすことが今後の課題である。</p>
委員	<p>確かにいじめの問題は大きい。 また、例えば、重い荷物を運ぶ場面で、単に平等だからということで、女子に重いものを持たせることは少し違うような気がする。男女の肉体的な違いを、お互いに尊重する意識が重要だ。</p>
委員	<p>スーパーで買い物かごを男性が持っていることについて、家族で話をしたことがある。今の子どもたちは、かごは男性が持つのが当たり前という意識がある。</p>
委員	<p>出席した中学生には、事前に男女共同参画のことがわかる冊子など、資料を配付していた。例えば、障害のある男性と健全な女性との間での荷物運びの分担や、女性は「産む性である」ことに対する男子の認識など、出席した生徒たちはよく理解できていたのではないかと、思われる。</p>
委員	<p>何でも「平等」ということが決して正しいことではない、ということも啓発していく必要があるかもしれない。</p>
事務局	<p>人権意識や差別意識を常に教育していらっしゃる学校関係者のほうから、今回の中学生ワークショップの新聞記事を見て、「当校でもカリキュラムを組んでみ</p>

	たい」といった問い合わせがあった。
委員	<p>学校や教育の中では男女平等を理解できても、父親が何もしない家庭で育った子どもたちは、実際どのように思っているのか？と感じる。</p> <p>冷ややかな目で大人（何もしない親）をみる子どももいるのではないか？</p>
委員	<p>中学生のほうが考え方は「柔軟」である。</p> <p>今回のワークショップでは、最初は自分から積極的に話す子は少なかったが、カルタなどを利用して話し合っていくうちに、徐々に理解が深まっていったのではないかと感じた。「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という意識がだんだん変わってきた子もいるようだ。</p> <p>中でも、「イクメンという言葉があること自体がおかしい」という意見に驚かされた。そもそも男親も女親も一緒に子育てすべきという認識である。このような中学生の柔軟な思考力とコミュニケーション力に感心した。中学生の頼もしい一面を見たような気がする。今後の大人社会への広がりが期待できそうだ。非常に良い企画であった。</p>
委員	発表しやすい雰囲気づくりも良かった。今後も続けていく価値はある。
委員	具体的でわかりやすいこの資料を、学校で活用すれば良いのでは？
事務局	ホームページでの公表も含め、各学校に配布を検討したい。プラン策定にも活用したい。
委員	「躰」とは「あーしなさい、こうしなさい！」ではなく、男女参画のなかで、自分たちで考えさせることが重要だ。
委員	<p>このワークショップの資料は大変貴重なものだ。</p> <p>男性の役割、女性の役割、お互いが理解し合うことが大事である。</p>
会長	資料4～資料6の施策体系について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	〈資料4～資料6の説明〉
委員	旧基本施策1) 男女共同参画の視点での社会制度・慣行の見直しについて、「見直し」して変更すると思ったが、そもそも「見直し」の定義とはどのようなことか。「ちょうさ祭りの山車」に女性が乗れるようにすることか。それとも施策の柱4の「調査・研究」にあるように、「見直しをすべき対象物を洗い出す」ことなのか？
事務局	なぜそのような差別になっているかを研究し、調査することが目的と考える。講演会で学ぶことも調査、話し合うことも研究のひとつ。まずは意識の改革を大目標に置いている。
会長	中学生ワークショップも一つの調査・研究である。その結果資料を配布することは意識の改革につながる。プランといっても拘束力のあるものじゃない。調べて結果を市民の手に返していくことは大切。

委員	<p>ちょうさ祭りの山車に女性が乗れる、乗れないという点については、日本では不平等ではないか、という調査研究結果がある。</p>
委員	<p>京都の祇園まつりでも、以前は女子が山車を引けなかったが、女性が引いても危険は少ないという調査結果を踏まえ、引けるようになった事例がある。</p>
事務局	<p>「これはおかしい！と思っている人がいる」ということを、広く知ってもらうことが重要である。それが調査・研究のアウトプットである。</p>
会長	<p>新【1】－「3. 固定的な役割分担意識解消に向けた啓発の推進」の「意識」は不要では？また「性別役割分担」という表現のほうが良いのでは？</p>
委員	<p>中学生ワークショップの結果はこの中に反映されているのか？</p>
事務局	<p>まだ反映していない。</p>
委員	<p>新施策の柱「6. 男女平等の視点に立った教育・保育の推進」に「キャリア」の文言挿入を提案したが、現在の進路指導方法ではなく、将来の自分の人生設計を含めたキャリア教育の必要性を意図している。一般的な「キャリアウーマン」という意味ではなく「ライフプラン」という意味を伝えたい。</p>
委員	<p>職場体験などは教育カリキュラムの中で実践しているが。</p>
会長	<p>新施策の柱「6. 男女平等の視点に立った教育・保育の推進」の中に、考え方としてすでに入っていると思われる。</p>
会長	<p>「人権作品の募集」については、今後検討。 「多様な学習機会の提供」については、一時保留。</p>
委員	<p>「基本施策3. 男女間のあらゆる暴力の根絶」について、最近話題になってきた「マタニティハラスメント」対策も必要。 ある市では「男と女」を「人と人」と表現しているところがある。</p>
会長	<p>具体的に取り組みの中に「虐待」が入っている。「基本施策3. 男女間のあらゆる暴力の根絶」は「基本施策3. 男女間のあらゆる暴力・虐待の根絶」と表現したほうがよいか？県では「女性へのあらゆる暴力の根絶」と表記している。</p>
委員	<p>施策の柱「10. 安心できる相談・支援体制づくり」は「づくり」→「充実」としてはどうか？ 施策の柱「5. 相談・支援体制の整備」との違いは？</p>
事務局	<p>事業内容（具体的取り組み）を区分している。 〈基本施策4「政策方針決定の場における男女共同参画の推進」～5「働く場における男女共同参画の推進」の説明〉</p>
委員	<p>女性の社会進出について、7/20の新聞記事によると、就活で女性が損しているといった報道があった。「面接で、総合職ではなく一般職を勧められた」「結婚しても大丈夫か、と聞かれた」「出産したときどうする、といったことを聞か</p>

	<p>れた」などである。</p> <p>意思決定の場で女性の進出が遅れていると感じる。</p> <p>国際的に見ても、日本はもっと女性を活用すべきである。岩手では女性の警察本部長がいる。さぬき市ではどうだろうか？また、教育の場では女性の管理職が減少している。</p>
委員	<p>SOHOは私の指摘だが、エンパワーメントといった表現は市民にわかるのか？</p>
事務局	<p>言葉の解説（用語解説）は掲載する予定である。</p>
委員	<p>商工業・農林水産業という文言が必要だろうか？</p>
委員	<p>商工業・農林水産業が入っている意図は、夫が中心的存在で、妻（女性）は補助的な家族従業者という現状を変えていく必要があるということと思われる。</p>
事務局	<p>県では「農山漁村」という表現になっている。</p>
委員	<p>商工自営や農業の場合、奥さんは女性部という組織に入っている場合が多い。そのような女性部は意思決定機関として機能していない場合が多いと思われるため、底上げが必要である。</p>
会長	<p>施策の柱「14. 商工業・農林水産業など自営業における男女共同参画の推進」から「商工業」という文言を削除しては？</p> <p>これに次いで「施策の柱15」を追加して「女性のチャレンジ機会の拡大・充実」としては？</p>
事務局	<p>〈基本施策6「仕事と家庭の両立支援」の説明〉</p>
委員	<p>中学生では「イクメンはおかしい」という意見があったが、まだ「イクメン」は浸透していないので、表記しても良いのでは？</p>
委員	<p>育児休暇は、男性は取りにくい。男性が育児休暇を取っても、将来のキャリアに影響しないならばよいが、現状そうはなっていない。制度そのものをはっきり変えていかなければならない。今は大変難しいだろう。</p>
事務局	<p>〈基本施策7「地域社会における男女共同参画の推進」の説明〉</p>
会長	<p>施策の柱「17. 地域活動における意識の改革」と「18. 地域活動等における男女共同参画の推進」は、内容的に同じであれば一緒にしては（融合しては）どうか？</p>
委員	<p>8月の新聞記事だが、子育て支援の優遇措置がある。八王子市などで実施しており、さぬき市でも検討していく必要がある。</p>
委員	<p>地域活動には「団塊の世代の組織化」が必要である。香川県内では三豊市で実施しているようだ。行政主導型でやってみてはどうか？</p>

事務局	施策の柱「17」と「18」は融合し、表現は18とする。
事務局	〈基本施策8「生涯を通じた男女の健康づくり」の説明〉
委員	年齢に応じた取り組みが必要。例えば、具体的取り組みの「101. 思春期・更年期・妊娠・家族計画等の情報の収集と提供」など。
委員	市民一人ひとりのカルテがある、といったイメージで健康づくりに取り組むべきである。
事務局	健診の受診者と非受診者は市として概算把握している。今後、啓発していく。
委員	基本施策8の表現について「生涯を通じた男女の健康づくり」とあるが、「男女」は削除しても良いのではないか？マイノリティの人への配慮も必要である。
事務局	〈基本施策9「男女がともに支え合う福祉環境づくり」の説明〉 障害者の「害」の字は、市として規定されていない。 →事務局一任となる。
委員	施策の柱19「男女共同の防災・防犯体制づくり」の具体的取り組みに「交通事故の防止」を入れられないか？
事務局	〈資料7：第2次プランの構成等の説明〉
委員	重点目標については、よく理解できている人とそうでない人の温度差が大きい。
委員	成果を明確にすることが重要であり、どれを「重点化」するかについては難しいのではないか？
委員	さぬき市の上位計画との整合性も必要になってくる。
事務局	重点目標は特に定めず、目標の立て方は「A. 現行通り施策ごとに」とする。 〈資料8：キャンペーン・講演会の説明〉
会長	市場先生は非常に素晴らしい方なので、是非出席を検討してほしい。
事務局	次回は素案をご提示する予定。11月または12月頃を予定している。
会長	以上で第2回男女共同参画推進協議会を閉会する。
<p>< 閉 会 > (17:00)</p>	